

## 指導行政のポイント

### 親の“理不尽な要求”

菱村 幸彦

最近、学校に対し理不尽な要求や抗議をする親が増えているというニュースを目にする。

#### 「モンスター・ペアレント」の出現

これまで何か問題があると、すぐ学校が叩かれる状況が続いてきた。昨年は、いじめ問題で学校はマスメディアの激しいバッシングを受けた。いじめの増加は、ひとえに学校に原因があると言わんばかりのニュースや論調が流れた。

それが、ここに来て少し流れが変わったようだ。というのは、外車を乗り回しているながら、給食費や保育料を払わない非常識な親がニュースになるなど、子どもがおかしくなったのは、親にも問題のあることが報道されるようになったからである。

とくに最近では、学校に対し理不尽な要求を突きつける「モンスター・ペアレント」と呼ばれる親が、学校を悩ませている実態が明らかになってきた。

例えば、こんな親がいるという。

- ・「自宅で掃除をさせていないから、学校でもさせないでほしい」と抗議する親
- ・子ども同士のけんかで「相手の子を転校させるか、登校させないようにしてほしい」と要求する親
- ・勉強の遅れた中学生に小学生の問題を解かせたら「子どもが精神的に傷ついた」と抗議する親
- ・学級担任に、子どもを起こして学校へ連れて行ってほしいと依頼する親
- ・子どもは熱があつてきつそうだが、自分は忙しいので学校で何とかしてほしいと依頼する親
- ・卒業アルバムに自分の子どもがあまり写っていないので、作り直せと要求する親

これは、最近マスメディアで報道された事例の一部に過ぎない。全国の学校で日々起きている事例を集めれば、もっと理不尽なものがあるに違いない。

こうした状況に対応するため、各地の教育委員会では、いろいろ具体的な対策をとり始めている。

例えば、東京都港区では、区内を5地区に分け、各地区ごとに弁護士を依頼して、学校が弁護士と直接相談する体制を整えた。

北九州市では、親のクレームへの解決策を助言するため、弁護士、精神科医、臨床心理士、警察官OBらで構成する「学校支援チーム」を発足させた。

大阪市では、親の理不尽な要求に対し、学校現場が適切に対応できるようにするため、新任教師を対象にした研修会を開き、教師と母親の役に分かれて「ロールプレー」の演習を行った。

#### 問題解決のための支援チーム

このほかにも、「管理職と教務主任を対象に研修を実施」(佐賀市)、「教委に親対応の専門職員を配置」(奈良市)、「目に余るときは警察と連携」(名古屋市)など、各教育委員会における様々な対応策が始まっている。

同じ観点から、教育再生会議第2次報告において弁護士・精神科医や警察官OBなどで構成する「学校問題解決支援チーム」を各教委に設置するよう提言していることに注目したい。

ところで、改めていうまでもないことだが、親のクレームの中には、筋の通ったもっともなものも少なくない。私が中高一貫校の校長職にあったときの体験からいうと、親のクレームで一番多かったのは、教科指導や生活指導に問題があると、私自身が認識していた教員に対する苦情であった。

こうしたクレームには、学校として真摯に対応をしなければならない。とくに指導力不足教員の適正な人事管理が重要である。その意味で、改正教育公務員特例法が定める指導力不足教員に対する研修義務と研修成績不良者に対する免職措置が機能することを期待したい。

(ひしむら・ゆきひこ = (財)学習ソフトウェア情報研究会代表理事)

本紙は、<http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>でも掲載

●好評発売! ● 7月27日刊! 菱村幸彦【編著】 A5判 392頁・定価3,150円 教育開発研究所

## 『最新教育法規ハンドブック—学校管理職必携』

研修誌・図書の小社への直接のお申し込みは無料 FAX 0120-462-488 をご利用ください(24時間受付・即日発送)